

タバコ情報とコメント(拡散自由)

2025年12月6日

Child Protection and Practice誌：

逆境的小児期体験とタバコ煙曝露の関連：米国小学生調査

松崎コメント

DV、貧困、薬物依存症など、小学生の生育環境に大きくマイナスの状態である家庭では、受動喫煙、サードハンドスマーキング（三次喫煙）が非常に多いことがわかりました。アメリカの小学生調査です。タバコ煙曝露が多いことと、子どもたちが大変な状況に置かれていることがパラレルなわけです。養育者のタバコ使用は、貧困、依存症、メンタルヘルス低下をもたらす主要原因の一つですから、喫煙防止対策が、子どもたちの生育環境を大きく改善する対策であることは明らかです。

逆境的小児期体験(ACEs)の有無質問項目

【論文テキストより】ACEsは2020–2021年のNSCHの10項目を用いて測定されました。具体的には、保護者に以下の9つのはい/いいえ質問がされました。「あなたの知る限り、この子どもは以下のいずれかを経験したことがありますか?…”それぞれの項目について、「やや頻繁」と「非常に頻繁に」と回答した場合、「あり」と判定しました。

- (1)「親または後見人が離婚または別居している」
- (2)「親または後見人が死亡した」
- (3)「親または後見人が刑務所に服役した」
- (4)「親や大人が家の中でお互いに平手打ち、叩き、蹴り合うのを見聞いた」
- (5)「近隣で暴力の被害者または暴力を目撃した者」
- (6)「精神疾患を患っている人、自殺願望のある人、または重度のうつ病の人と同居したこと」
- (7)「アルコールや薬物の問題を抱える人と同居したこと」
- (8)「人種や民族グループのために不当に扱われたり判断されたりする」、
- (9)「性的指向や性自認のために不当に扱われたり判断されたりする」(児童・青年健康測定イニシアチブ、2021年;児童・青年健康測定イニシアチブ、2022年)。
- (10)「この子が生まれてから、家族の収入で食費や住居などの基本的なものを賄うのがどれほど困難だったか?」

逆境的小児期体験とタバコ煙曝露の関連：米国小学生調査

Merianos AL, Hill MJ, Gregory KA, Turk ST, Smith ML, Mahabee-Gittens EM. *Adverse childhood experiences and tobacco smoke exposure among U.S. school-aged children.* *Child Prot Pract.* 2025 Oct;6:100210. doi: 10.1016/j.chipro.2025.100210. Epub 2025 Jul 17. PMID: 41306665; PMCID: PMC12646573.

背景:逆境的小児期体験(ACEs)は、子ども時代の健康状態の悪化に関連するトラウマ的な出来事です。子どもはACEsやタバコ煙曝露(TSE)に脆弱ですが、ACEsと家庭内TSEの関連についてはほとんど知られていません。

目的:本研究は、米国の学齢期児童におけるACEsと在宅TSE状態との関連性を評価することを目的としました。

方法:2020-2021年の全国児童健康調査データの二次分析を行い、6歳から11歳の子ども26,422人を対象としました。ACEsは、世帯、地域、経済状態について累積的に評価されました。子どもの家庭におけるタバコ煙曝露状態：ゼロ（同居喫煙者なし）、三次喫煙あり（同居喫煙者はいるが、家庭内喫煙なし）、二次・三次喫煙あり（同居喫煙者が家庭内で喫煙する）加重調整済み多項ロジスティック回帰分析が実施されました。

調査結果：

逆境的小児期体験（ACE）の数：1項目22.4%、2～3項目12.2%、4～10項目4.9%。

逆境的小児期体験が増えるほど、自宅におけるサードハンドスマーキング（THS）と受動喫煙（SHS）が有意に増えていました。

逆境的小児期体験(ACE)数	1項目	2～3項目	4～10項目
自宅THSオッズ比	1.59	2.62	5.16
自宅THS+SHSオッズ比	2.00	4.36	9.71

結論：

学齢期の子どもの自宅におけるタバコ煙曝露（サードハンドスマーキング、受動喫煙）と逆境的小児期体験が相関することが示されました。